

日華連 会報

中華伝承の会

日本華道連盟創立50周年記念号 第130号



会場風景

華道大学



いけばな松風 家元 塚越応鐘先生



アイリッシュハープ
永山友美子先生

一般社団法人

日本華道連盟

東京都新宿区百人町2-18-20

☎03-3369-3769

発行人 塚 越 応 鐘
編集人 渡 邊 華 風

会報のリニューアルに寄せて

一般社団法人日本華道連盟理事長 塚越 応鐘（いけばな松風）



来年、日本華道連盟は創立50周年を迎えます。それを記念し、会報が今回の130号から、サイズもポリウムもアップして、カラー印刷となりました。今となつては逆に貴重感があるモノクロ印刷でしたが、色が入ることで雰囲気が変わり、興味も倍増するのではと感じております。初校を拝見しておりますが、今回の投稿数が通常に比べ非常に多く興味をひく内容に驚いております。記念号であることを周知していただくため広報担当者を中心に役員が努力した結果と嬉しく思います。

会報とは、いかなれば連盟の日記帳、諸行事を紐解く巻物です。これが持続していることにより、私達は活動の一コマを容易に垣間見ることができるようになります。

表紙のタイトル「日華連」の文字は、現在は名誉会長の中曽根康弘先生が、政界で華々しく活躍の頃に、日華連の名誉会長をお引き受け下され、その頃にお書き頂いた貴重な書体であり、これからも表紙を飾っていくことでしょう。

創立からの50年を歩みと捉える時、ずいぶん遠くまで来たという感を強く致します。一流では困難なことでも、多くの流派が集えば成し得るという理念のもと、力強い一歩は尊敬する諸先輩が踏み出したのでした。発足当初から在籍の武井美恵先生は感慨もひとしおと存じます。

順風満帆の歩みの日々が続きましたが、長い道のりには、時代の波々という険しい山坂もありました。紆余曲折迷いつつも相互の協力と信頼のもとに、ここまで辿りついていることを誇りに感じております。

しかしこれからの時代はますますロボット化し無機質な環境が進むことでしょう。四季を愛でる心、自然を慈しむ気持ち、これらを伝

える華道という終わりのない道程を後世に伝えるために私達は歩まねばなりません。長年に渡る海外研修、国民文化祭、華道大学講座などの諸行事をこなしつつ育まれた絆を楯に、日本華道連盟として邁進して参りましょう。

最後になりましたが、毎号の乏しい原稿から発刊にこぎつける努力やマンネリ化を防ぐご苦勞など、広報の方々にはあらためて感謝申し上げます。これを機に会報が益々愛読され、勢いのある会報に成長できることを信じております。

第12回 時代を彩る いけばな百花繚乱展



新宿西口公園から会場の新宿パークタワーを望む



二階は格華コーナーに



アトリウムの一階と二階が会場

元顧問 故 藤井秀樹先生の個展

先生が逝去されて七年を記念して七月十二日～十六日まで表参道のスペーススジングで開催されました。日華連は後援ということでお祝いをさせていただきました。

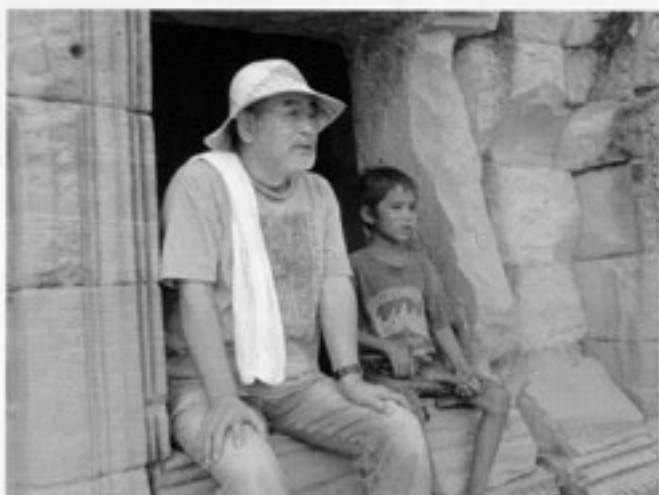
今回は晩年ボランティアと遺跡でのモデル撮影に力を注いだカンボジアをテーマに先生の作品と現地での様子の写真を中心に展示さ



写真家
藤井秀樹展
memorial photo exhibition



れました。生前九回同行した応鐘先生のスナップが多数採用され、会期中に開催された「藤井秀樹を語る会」の話題に花を添えていました。



撮影中の小休憩



アンコールワットにて

若手作家たちの挑戦

会員数減少を嘆く声の大きさを感ずる昨今、次代を背負う若手作家の挑戦が各地で繰り広げられて



白衣観音の足元で



いるのは頼もしく思う。

いけばな松風副家元塚越応駿先生の今年度の挑戦を紹介します。



満開の桜を背に塚越応駿先生

二月 花いけバトル フランス
ランジス花市場(バトラ)

小野寺衆(フラワーアーティスト)・曾我部翔(フラワーデザイナー)・塚越応駿(華道家)

四月 松樹千年翠・書×花×音
高崎慈眼院・白衣観音

書・白石雪妃、花・塚越応駿、音・
山岸直人、ヨネタカマキ

満開の桜の下でのパフォーマンスは花見客を巻き込み4人の息も
合い圧巻でした。

五月 古民家はなうつわ 足利市
参加作家
はないけ 塚越応駿、山田尚俊、

下 里子 幸介

古民家彩る花と陶芸

きょうまで、はなうつわ 足 利

【足利】生け花や陶芸が展示された古民家を巡るイベント「はなうつわ」が28日、大田の松村記念館をメイン会場に始まった。全国各一で構成する団体「TAA（日本陶芸家協会）」が主催し、陶芸家や生け花家、古民家愛好家ら約100人が参加した。イベントは、生け花や陶芸の展示、観覧客は花やフラワーアレンジメントを完成させた。28日は正午から、通子7時から足利市と古民家と連携した「はなうつわ」の会合を開催する。イベントは、生け花や陶芸の展示、観覧客は花やフラワーアレンジメントを完成させた。28日は正午から、通子7時から足利市と古民家と連携した「はなうつわ」の会合を開催する。イベントは、生け花や陶芸の展示、観覧客は花やフラワーアレンジメントを完成させた。28日は正午から、通子7時から足利市と古民家と連携した「はなうつわ」の会合を開催する。



「ライブはなうつわ」で壁に粘土を付けて作られた器と生け花



塚越応駿先生担当の部屋

足利市内に点在する古民家を周遊し、歴史ある古都の街並みも楽しめるイベントでした。

七月 台湾 陶芸家・山本順子、版画家・関雅治二人展にパフォーマン

八月 第五回洞窟観音いけばな展

高崎市 伊藤庭花（小原流）・榎本理鶴（古流松濤会）・大野

増野光晴、曾我部翔、篠田徂徠、うつつわ 山本順子、富田啓之、丸岡勇太、岳中爽果、前田直紀、長谷川泰子、二階堂明弘

職人の美しい技が残る古民家を舞台にくりひろげられた花いけアートイベント。時代を担う若手作家による花と器のコラボレーション。



永山友美子さんのアイリッシュハープの演奏で始まる

華道大学講座

夏の陣 洞窟観音 いけばな展

【会場】 洞窟観音 いけばな展

【日時】 平成29年8月11日(金) 15時(入場) 16時(開演) 17時(閉演)

【料金】 一般 1,000円 学生 500円 幼児 200円

【主催】 洞窟観音 いけばな展実行委員会

【お問い合わせ】 027-323-2766

理瞳（古流・大観流）・新藤華盛（桂古流）・増野光晴（雪舟流）・塚越応駿（いけばな松風）

洞窟内は自然に冷やされ、四十度を超える真夏の猛暑でも常に十七度に保たれており、三十三観音にありわけて割り当てられた観音に華をいけました。



陶芸家が即興でろくろを回しでできたナマの器に作家が次々にいけ、30分で20点以上がで上がるパフォーマンスは圧巻でした。



大作実演は塚越応鐘理事長

いけばな松風秩父支部
いけばな松風秩父支部展が五月二十日から二十二日秩父市八尾百



15分で完成

貨店で開催されました。急逝された前支部長五十嵐応艶先生の追悼展となり、会場中央には先生の功績をたたえて作品写真が展示されました。



大勢の観客をお迎えして



生前の作品はパネルで

第九回花華展—自由花「いけばな松風」・古典花「東華古流」が高崎市の青雲塾会館ホール、旧居宅で開催された。主催はいけばな

青雲塾会館(中曾根康弘資料館)

第9回

花華展

自由花
いけばな松風
古典花 東華古流



五十嵐応艶先生を偲ぶ



古典花 東花古流家元 加辺成久



迎え花 いけばな松風家元 塚越応鐘



賑わいを見せた会場、奥と旧居宅に東華古流コーナー

松風（家元・塚越應鐘氏）、東華古流（家元・加辺成久氏）。

花華展とは時代の流れを意識し現代の住環境に合わせた自由な発想で花をいける「いけばな松風」。花型を守り日本古来の文化、風習を継承する「東華古流」。それぞれ異なった目線で花をとらえる二流派が合同で作品を発表する、今回で九回を数える催しである。

流儀が違う個人の作家のコラボはあっても流派同士の花展はあまり見られない。こうした合同展の開催にはさまざまな事情があるだろうが、それぞれの流派展に向くより格段の楽しさが増す。実際に取材に行き、大勢の人たちが途

切れることなく来場する光景を目の当たりにすると、合同展の効果

は大きいと感じる。

（日本女性新聞より抜粋転載）

日本華道連盟創立五十周年を迎えるにあたって

日本華道連盟副理事長 武井 美恵（都古流美和会家元）

来春日華連も五十周年を迎えることになりました。私は都古流美和会小野美朝初代家元と共に新宿小田急デパートでの日華展の初めての試みに参加し、心踊らせたものでした。塚越應鐘先生の御祖母さまの応環先生にお目にかかって以来、日華連の一員としてお世話になってまいりました。五十年の間には多くの先輩方ともお別れせざるを得ませんでした。ご一緒できたことを感謝しております。今日まで来ることができたのも、生け花を共に学んだ生徒さん方から、勢いをいただき、美しいお花から無限の喜びをいただき、毎日楽しく過ごせたからです。この幸いを「生け花」のお勉強を通して多くの方々に還元できることを願っています。

地方からの都内の日華展（京王プラザホテル・銀座プラタナや玉川高島屋）への出展では毎回ホテルに泊まらなければならず、なかなか大変でしたが、毎回何とか

らしい日本の伝統文化芸術「いけばな」をお若い方々にこれからの五十年も立派にひきついで行っていたきたいと願っています。

当方「都古流」の活動では平成十四年、創流四十周年の華展を地元の岡谷市民会館（カノラホール）で盛大に催したことが長崎ハルステンボスのパレス美術館まで出かけて流派で展示したことなどが大きな出来事でした。「やすらぎのいけばな」などの写真集を刊行できたことやカラー刷りの「美和会だより」の発刊も形の残った貴重な宝物です。地道な活動としては、毎年、各支部共通で、花材のテーマを決めての研修会で研鑽を積んでいます。文科省後援の事業で「子供生け花教室」を続けてきました。若い時からいけばなに関心をいただき感性をみがくことはとても大切なことと考えています。いずれも大好きな生け花と共に生き、多くの方々の支えがあったからこそと感謝しています。これから日々、一日一日を大切に、花鋏を手にして、ときには豪華な花や大木あるいは、はかない可憐な可愛い花に向き合って、心和む美しい作品を作っていきたい

と思うこのごろです。
あらためて日華連五十周年おめでとうございます。

平成二十九年 夏

いけ花を学ぶ環境整備を

日本華道連盟副理事長

井口 理香（古流香和会家元）

本連盟は平成三十年に五十周年を迎えます。一般社団法人日本華道連盟の定款第二章第三条に、この法人は（中略）華道の普及を図るとともに（中略）もって我が国の文化の発展に寄与することを目的とするとあります。日本のいけばな（華道）・茶の湯（茶道）他でも、武士道（剣道・柔道・弓道）。これらは今や世界中で認知され、興味と尊敬の念を持って迎えられています。花を愛でる、生ける、飾るという行為は世界中にあります。す中で、我が国の長い歴史と伝統の中から生まれ、守り伝えられてきた伝統文化であるいけばなは、日本の誇る伝統芸術であり、茶の湯とともに、一般に親しまれてきた代表的な生活文化といえます。その素晴らしい日本文化をもっと詳しく知りたい、体験したい、肌で感じたいと、各国から大勢の外



2016年 6月18・19日
茨城県支部 倉持理裕教場



2016年 6月27・28日
長崎支部 田中教場

国人の方々が日本に憧れを持って来日されています。

私の地元、大田区では区内の小・中学校の教員を対象とした日本の伝統文化研修会を平成十九年より現在まで実行し継続しています。本年も七月二十七日・二十八の二日間行いました。そのアンケートに「国際化といわれて、ずいぶんとなりますが、他国の理解は進んでも、自国の文化といわれるときちゃんと理解していない、紹介できないというのが実情だと思っています。今回の研修で改めて母国の文化を考えることができ、良い機会となりました。」「華道や茶道を習いたい気持ちがあっても敷居が高すぎた？」「いろいろな決まりごとがあつて難しそう？」などがありました。

いま日本では、倫理観の欠如した非道な諸問題が毎日のように報道されています。守り伝えられてきた日本の伝統文化の華道は人格や品格や品位の形成に役立ち、ひいていえば文化の発展・継承に繋がると確信しています。伝統文化を絶やさないためには、いけばな人口の維持と拡大が課題だと思います。若者時代にもっと積極的に働きかけたり、現在の建築様式に

合わせたちよつとおしゃれないけばなをみんなで考案しあったり、現在私もブチトマトならぬブチ生花を試作してみたりしています。小中学生世代の子どもたちでも楽しくいけばなを学ぶ環境を整備するなどもっと積極的にアピールすればいけばな（華道）をやってみようかなという方たちが出てくると思います。

平成三十二年の東京オリンピック開催時には、日本人の美しい「おもてなしの心」でお迎えし、やっぱり日本の伝統文化である華道は素晴らしい「さすが」と言ってもらえるように、更なる心の修養に努めてまいりましょう。

平成二十九年吉日

五十年の歩み

日本華道連盟副理事長

渡邊 華鳳（翠月古流家元）



日華連の皆様にはいつもお世話になっております。思い起こしま

みどりや歩

第52回 翠月学園祭

10/8(土)~10/9(日)

会場：御殿場高原ホテル 2F 富士の間

※ 翠月古流華道展
※ 翠月華道会館
※ 演 奏
※ アール・ドゥ・スイザツ展
※ 山本美奈子プロジェクト展
※ 土に還る木・森作りの会

招待券

すと日華連華展は五十年前小田急百貨店において催されました。当流は五名出瓶いたしましたことを今でもはっきりと憶えております。以来会場は変わりましたが今日まで続けられましたのは、一重に日華連の皆様が家族のように接してくださったからです。心からお礼申しあげます。私どもの主な行事は一月の新年会、三月の免許式、秋の学園祭、年三回の研究会、年四回の指導者教授会、夏期講習会です。静岡県華道連盟副会長、東部の会長も受けました。来年は五月十九日・二十日にわたり椿山荘で華展を行う予定です。副家元秋元華穂の追悼華展として催します。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

生け花と出会う

古流みどり会 菅根 理淳

小さい頃から「花」が大好き、

という訳ではなかった私が、古流の生け花に出会ったのは中学生の時でした。

高校卒業と同時に正式なおけいこ場に通り始め、細々ながらも今日まで続いています。そして、始めた頃には夢にも思っていなかった「教える」機会をいただき、母校で家元のお手伝いをしていました。

本当に人生はわからないものだと思いますが、続けるにつれてどんどん「花」の魅力にひかれていったのは確かです。

さらに、その魅力を多くの人に見ていただき、広めることができ「華展」への出瓶という機会も得ることができ、自分自身の幸運を感じるばかりです。

華道連盟五十周年の華展でも精一杯、花の魅力を披露したいと思っています。

思い出の中から

松月堂古流開華 岡野開華齋

先代家元が他界し間もなく日華連入会へのお話をいただきました。若輩だった当時の私を振り返ると、いろいろな事柄が一挙に押し寄せ心悩む頃でしたが、それよ

りも未知の華道団体組織の魅力に惹かれたこと、また諸地域の方々と触れ合いの場や華道展に参加し、他流の花型を知り、その中で刺激を受け、少しでも自分を磨き高めていけたらとの思いで入会させていただきました。

当時の理事長、塚越生武先生から役員の方にご紹介いただき、緊張しながら一歩を踏み出したのです。

そしてまずはブラントン銀座での日華展でした。花材は、持ち運ぶ時、人の迷惑にならないよう大きな風呂敷で覆い、花器は主人に持ってもらい、デパート裏の所定場所で列を作り、行き交う人を横目に入場時間を待ち侘びました。

会場内は、地方では見ることのなかった珍しい花席作りで、胸が高なつたのを覚えています。いろいろな流派の作品を目の当たりに刺激剤を得て、更なる意欲が湧いてきた日華展初体験でした。また、手直しのため、朝早く地方から出てくる私を気遣って暖かく仲間に迎えてくださり、近くの喫茶店でも楽しく集わせていただいた先生方とのことは、日華連でやっていくのかどうかの迷いを払拭する妙薬

だったと思います。

平成八年には、日本橋三越でクリスタルダルクに生ける「野の花」に参加させていただきました。花材を求めに地元の山に向きまみし草、釣舟草、ノコン菊など数種を選び、それらが透明ガラスの中で姿を変えた時は、採取の大変さを忘れ、自然に生きづいているものの美しさに心を奪われた印象深い作品展でした。

また、今は亡き写真家藤井秀樹先生が撮ってくださった写真集「百花繚乱」では、先生から沼の中で作品をと突然指定された時は驚きましたが、漂う枝や葉の中に蘭が君臨し漂流する作品として表現でき、私自身解放されたいけげな挑戦できた新鮮で魅力ある体験でした。

入会から早三十二年、日華展はもとより、各地に赴いた国民文化祭や研修旅行、また海外研修では日本のいけばなを披露し歓迎されたこと、華道大学講座では、学びながら楽しませていただいたこと、これらは全て理事長先生はじめ役員の方、会員の皆様のおかげです。たくさん思い出をありがとうございます。

藤沢市の文化事業

池坊鳳秀流 長田 華鳳

藤沢市では、最近市民参加の文化事業に力を注いでいます。長い歴史のあるものでは、(公財)藤沢市みらい創造財団と協力し、藤沢市展を実施しています。これは、絵画・陶芸・立体・書道・写真・華道の各部門を公募で行うものです。参加資格は市内在住・在勤・在学の方々を対象とし、参加料は無料です。

今年で六十七回を迎える歴史あるものですが、華道の部門は作品



を預かることはできませんので、別日に受付を済ませておき、活け込み当日二時間で完成させた後、審査員(西川女性新聞社長と洋画家)が審査し各賞を選びます。一般公募のコンペ形式ということから華道協会会員は参加できません。活け込みの際は、市の職員だけの立ち合いで私語は禁止されており、知り合いでも言葉を交わすことは禁止される厳しい雰囲気です。実施されます。今年は、市長賞に一般の大人たちを尻目に十四歳の男子中学生が選ばれ、周囲を驚かせました。彼は幼稚園・小学三年

す。

ちなみに、小学生はヨーロッパ
ンフラワーアレンジメント、中
学生は伝統いけばなの型を活けま
す。

完璧ないけばなの作品でなくともよいのです。自分らしくいけば
なを活けること、楽しむこと、こ
のことが重要だと思っております。

卒業という最後の機会に、小さい子どもだった懐かしい生徒たちが旅立つ姿を見られる瞬間、感無量です。

これから日本文化のボランティア活動を続けてまいります。

《社》日本華道連盟 入会に寄せて

遠洲古流和松会 奥野 一富



日本華道連盟に、私の恩師Y先生が塚越応環理事長の代より、在籍し、大きな華道団体と思われました。花は人の心を和ませ、潤いを

与えることで、有意義であり、また日本古来の伝統文化である。金融機関へ勤務し、Y先生が住居を構えた頃より、常々母親より、先ず花の勉強を勧められ、Y先生の手ほどきを受ける機会に恵まれました。Y先生の計らいで、塚越生武理事長の代に、Y先生外四名で、東京プリンスホテル、大広間で、(日本華道連盟教授の証)を頂戴して、至宝として大切に保存しております。この思い出は、走馬燈のように、浮かんでいきます。

その後、会の役員交替により、新宿京王プラザホテルになり、高崎駅発電車が有り、便利で毎年一月、新年会、総会に四名出席し、知識を得る喜びを感じました。京王プラザで、四十代の頃、昭和何

年か定かではありませんが華展に出瓶のチャンスがありました。

地方では、何度も出瓶しても、有名ホテルでは、初めてなので、他流の方々の作品を参考にできた、良き機会でした。一泊し、横浜の親友と昼食を共に、久し振りに語ることができ、楽しいひと時でした。

この後も、習得すべき課題あり、いけば花の奥深さを痛感しました。銀座プラザタン華展会場の時は、交通の便良く、一人でも参加できますので、電車の都合もあり、中作品は何度か出瓶しました。会場も照明や様々な工夫あり、変り行く時代に応じていく心地がし、関係者の配意が分かり、感謝しております。現代に適応した作品出瓶ができるように、日々努力の必要

性を感じました。

昨年度三月、メトロポリタンの講師より、若い方たちが、白い菊を買わない、ほとんどのホテルが造化と聞きました。若き花の生産者に、本日出席の資格者が、指導するようにとのことでした。もつともだと思えました。今年度の夏期講習会テーマ「愛情とやさしさで人は育つ」、期待しております。

さて戦前は、まず結婚前はいけば花を習い、床の間や、玄関等々に、伝統文化を育む気持ちを指導されました。高度成長から、海外の洋花入荷等、新種の花の品種改良が行われ嬉しい限りです。一方古典花の見直しもされており、フラワーデザインが若者に好まれる時代です。

若者や男性がいけば花に興味を持つ、学ぶチャンスと考え、日本伝統文化の継承者を、見付けることが、急務と思慮します。華道の重要性を感じている今日です。日本華道連盟の一員であることを、誇りと思っています。

塚越理事長の卓越したアイディアと比類まれなる才覚には、感銘するばかりです。

これからの会の益々の発展を祈念しております。



心を強く

生きていきなさい

いけ花研究家 米村 孝一

西洋風の応接間ではなく、我が国の建物には、座敷があります。

座敷は、我が国の建物の中で一番大切な場所とされてきました。客は、この場所に通されますが、このような時、客は床の間に掛けられている掛物を見、また生け花を拝見することが礼儀とされてきました。この家の主人を待つしばらくのあいだ、露をいただいた草花の風情を見て過ごす閑さは、日本人だけがもっている特質であると思われまふ。しかしながら、多くの日本人がマンション住まいとなった今日、マンションには床の間を設えていない造りも多く見かけられるように、我が国の先人たちが守り伝えてきた善き事柄が、既に忘れ去られているものも多くあります。

野に咲く草花は、今も昔もかわることはありません。しかしながら、この花を美しいと、我が国の先人たちは見てこなかったのです。青垣山、青々と茂った山々が

峰を連ねている姿と対比し、その山々を称えてきた我が国の先人は、麗しき花は移ろい易きものだと感じてきたのです。我が国の神話に伝えられている、磐長姫と木之花咲耶姫の物語は、そのことを今に伝えています。このことは、その後も我が国の人生において価値判断をするとき、一定の基準とされてきました。例えば、我国では「松・竹・梅」と呼ばれる生け花が、結婚式をはじめとする祝いの席に飾られてきました。この生け花には色々の意味が籠められ、生けられてきましたが、中でも「松」は雪降る中にあってその翠の葉を交えることがないことを喜びとして生けられてきました。そこには、青垣山を称えてきた我国の人々の思いが反映されているといつてよいでしょう。

ところで、花の未地が興ったとされる足利時代中期に、宮廷学者で碩学者の一条兼良(一四〇二—一四八一)がいました。彼は、將軍の妻である日野富子から「私の心を慰めることができる書物を書いてください」と頼まれ、「小夜のめざめ」とともに「身のかた



み」を著していますが、同書には「柳の糸のみだ、る時、末の葉ふたつひらくるを、柳の眉という」という、一文が記されています。

(中略)

ここには、文政六年に刊行された花書に載せられている絵図を載せておきます。枝先には若葉が二つ開いている姿が生け表されていました。その姿は柳の「特質」、私たちが観て学ぶべき姿が、生け表されていたといつてよいでしょう。と共に、兼良が富子に説いて聞かせた言葉が、三百四十年も経た江戸時代の人々の心の中に生きていたことを併せて今に伝えていきます。

この様に、我が国の生け花の文化は息の長いものなのです。

参考文献 私蔵

「遠州流正風花矩拾遺」

文政六年(一八二三) 刊

「みのかたみ」

群書類従所収

その他

柳の眉

いけはな研究家

洗心雲林派 米村 孝一

日々、時間に追われて生活している私たちは、心静かに花を生けているときが一番楽しいものです。が、時には花の道の先人たちが生けた生け花の姿には、どのよ

うな意味がこめられているのかを紐解くことも大切だと思います。

花の道が興ったと

される足利時代の中
期。宮廷学者の一条

兼良がいました。彼は碩学者としても知られ、將軍義政の妻である日野富子から、「私の心を慰めることのできる書物を書いてください」と頼まれて書き著したのが『身のかたみ』です。同書には「柳の糸のみだる、時。すえの葉ふたつひらくるを。柳の眉という」と書かれていました。柳は、雨降るとき、枝先の葉をびっしりと濡らし、葉を閉じ雨がやむのを待っている。その姿は雨に濡れて、身も心も打ちひしがれているかのように見える。だが、よく注意して見ると、閉じた葉の先端には若い命を芽ぐんでいる。兼良は、その姿を通して、富子に「心を強く生きていきなさい」と諭したのです。その言葉に込めて、富子は柳の眉を書き、その後を生きたそうです。兼良の励まし言葉が、女性の化粧法に及んでいるとは驚きです。



絵図は、江戸時代後期、松月堂古流祖、是心軒一露が生けた作品です。花材は椿ですが、枝の先端の二枚の葉が「末の葉二つ開くる」の姿を、よく生け表しています。兼良が、富子に説いて聞かせた言葉が、後の世の人々の心に生きていたことを知ることができ、抛入花の作品として貴重です。参考文献「みのかたみ」(群書類従)・「生花・萩野霜」私蔵書

平成29年度

(二社) 日本華道連盟

総会並びに新年会

平成二十九年一月十五日(日)
正午～十五時、新宿京王プラザ
ホテル44Fハーモニー

総会は井口副理事長の司会のもと「明けましておめでとうござい
ます。これより一般社団法人日本

華道連盟の総会を開

会いたします。お寒

い中、お忙しい中、

ありがとうございます。

ました。」でスター

トした。次に理事長

塚越応鐘先生の年頭

の挨拶は、「今日は

最大級の寒波で日本

全国雪の中という日

にお出かけいただき

ありがとうございます

す。高崎で外を見た

ら真白でしたので

びっくりしました。

…中略…今年は多く

の人に喜んでいただ

ける華展になると思

います。生花にたず

さわる人は長寿で

す。前日華連の副理

事長は九十才を過ぎて

います。若

い方々と接し、手先を

使うことが



塚越応鐘先生年頭の挨拶

平成29年度 総会並びに新年会



永山先生を囲んで 日華連役員

健康のもとです。どうぞ多くの方に生花をやるのが健康ですよと呼びかけて下さい。」

次の来賓祝辞は名誉会長中曾根弘文先生の秘書である上屋様のご挨拶です。「皆様明けましておめでとうございます。中曾根は六期三十一一年目のスタートで海外出張しております。くれぐれも皆様



新年会の風景

によりしく申しておりました。

健康寿命は元気女性が多い。私も中学生時代に生花を習ったことをおぼえています。生花は日本人の自然に対する気持ちを表現していくものであり、日本伝統文化を若い世代に広め見つけて世界には話しています。本日はありがとうございました。」

議題

- 一 平成二十八年度事業報告
企画部長 岡野闌華齋
- 二 平成二十八年度決算報告
会計部長 佐藤寿美華
- 三 平成二十八年度監査報告
監事 田代 華晴
- 四 平成二十九年度事業計画(案)
企画部長 岡野闌華齋
- 五 平成二十九年度予算(案)
会計部長 佐藤寿美華
- 六 その他

「全ての議事が終了いたしました。一つ一つの行事が会員の皆様のご協力により成り立っております。これからよろしくお願いいたします。ありがとうございます。」の渡邊副理事長の閉会の挨拶で終了した。

総会に続き午後一時から、山崎応秀理事の司会で新年会が開催された。鶴飼理久美常任理事の開会のことばから始まった。続いて塚越理事長の挨拶で、総会ありがとうございます、ひきつづいて、「本日は永山友

美子先生にアトラクションをお願いしました。今年の華道大学では講師をしていただきます。永山先生とお付き合ひし、十年以上たちます。華道展、華道大学には、ほとんど出席していただいています。この十年で益々表現力が素晴らしいくなり、必ず涙をさそうのでハンカチをお忘れなく」といわれました。その後、「群馬県は市町村すべてに文化協会があります。先ほど言いました健康年齢は女性で一位は静岡、二位は群馬県です。静岡は毎日お茶を飲んでいるからですが、群馬県は文化活動だそうなんです。新年会楽しんでいきたいと思えます。」

日本女性新聞社の鳥居様による

乾杯のご発声とご挨拶

「明けましておめでとうございませう。先ほどの総会で本年度の行事が決まり百花繚乱展をはじめ、日華連さんの力を今年も見せていただきたいと思います。東京オリンピックが三年後に迫ってまいりました。オリンピックはスポーツの祭典ですが同時に文化を示すものだと思えます。文化活動は二〇二〇年ではなく、今から始めていかなければいけないということ

を、いろいろ周りからききます。そういう意味で日華連さんのように力のある流派が集まっている会は有効です。ぜひ三年後に向け、お力を発揮していただきたいと思えます。ぜひスタートになるように祈っております。日華連の益々のご活躍に乾杯。」

アトラクション

ハープ奏者 永山友美子先生

「皆様明けましておめでとうございませう。今日はいつもとプログラムを変え、皆様のリクエストにお応えするというスペシャルバージョンをお届けしようと思えます。」

一曲目 鳥居さんからのリクエスト「涙そうそう」

二曲目 シューベルト「鱒」歌詞は魚を釣り上げるさまを歌ったものですが、実は若いお嬢さん世の中いろんな危険が隠れているんだよというとても含みのある意味があるそうです。

三曲目 アダモの「雪が降る」ちようど今日は日本海側は大雪でございませう。

四曲目 グノーの「アヴェマリア」半音操作が難しいこの楽器で演奏するのは大変。

五曲目 唱歌「ふるさと」残念

ながらこのような文部省唱歌というのは今のお母さま方や子どもたちは歌ってくれませんか。「ふるさと」は六年生の教科書に載っていますが、教えても教えなくてもいいというのです。「荒城の月」は教科書から消えました。文科省の方が言うには言葉が古すぎて難しいそうです。難しい言葉だからこそ学校でちゃんと教えてほしいと思うのですが、皆さんはどう思われますか。最近、このふるさとが出てくるような美しい風景もこの国から失われつつありますね。「兔追いしかの山―忘れがたき故郷」皆様の心に響く名曲です。メロディーとともにずっと受け継がれてほしいです。スクールコンサートの時によく子どもたちにお話しするので、心の歌を一つお持ちください。皆が歩んでいく道は辛いことが一杯あるかもしれないよ、でも心の歌が一つでもあると、その苦しみを和らげるかもしれないよ。もし仕事や勉強で外国へ行くことがあったならば、日本の歌を一曲、訪ねる国の歌を一曲覚えていってね。上手に英語をしゃべるよりも僕の国の歌を一曲歌います、あなたの国の歌も一曲

披露しますと言ったらあなた的人格がとても高くみえると思うよ、これが本当の文化だねと話するときがあります。どうぞ皆様方、心の歌を一曲お持ちください。

六曲目 アイリッシュハーブの故郷アイルランドの曲「庭の千草」バラの季節が終わっているにもかかわらず我が家の庭の片隅に真っ白なバラが一輪咲いている。何と健気で可愛いのだろうという言葉がついている名曲です。

七曲目 瀧廉太郎「花」

八曲目 「さくらさくら」

最後の曲 「千の風になって」アンコールは「荒城の月」を理事長のソロとともに会場の皆で歌いました。

二〇〇四年十月 京都で台風洪水で浸水し遭難した観光バスの乗客たちのエピソードが紹介され、その時にバスの屋根の上で皆で「幸せは雲の上に……」の替え歌を歌って恐怖の一夜を乗り切ったそうです。

加迎成久常任理事の閉会のことばで盛会のうちに終了となりました。

第十二回百花繚乱展

「時代を彩るいけばな百花繚乱展」は二〇一七年四月十四日(金)から十七日(月)まで新宿パークタワーギャラリーにおいて催された。後援は文化庁・(株)日本女性新聞社、前記六十名後期六十名による各流の特徴を生かした素晴らしい生花が披露された。



第12回百花繚乱展 役員作品



常任理事 加辺成久
東華古流



常任理事 鵜飼理久美
古流みどり会



理事長 塚越応鐘 いけばな松風



理事 武井美陸
都古流美和会



常任理事 佐藤寿美華
華道池坊寿美華流



副理事長 武井美恵
都古流美和会



理事 山崎応秀
いけばな松風



常任理事 岡野開華齋 松月堂古流開華



副理事長 井口理香 古流香和会



理事 藪田華考 翠月古流



副理事長 渡邊華鳳 翠月古流



幹部会

平成二十九年度幹部会は七月二十三日(日)浅草ビューホテルにおいて開催された。

井口理香副理事長の司会のもとスタートした。塚越理事長の挨拶は「今日は幾分涼しさがあります。高崎から花を持ってこることが一番心配でした。この度私は群馬県文化協会の会長となり、百八十三団体の長になりました。本当に身の引きしまる思いです。今まで受けられなかったが、息子が代理を務めてくれるので受けることができました。華道会が高齢化になり、若い入門者が少ない、他の文化団体もしっかりであります。しかしそれぞれの団体が若い人が入り易い環境を作ること努力しています。中略：日華連も来年は五十周年を迎えます。今年より会報もカラーになり記念展五十周年華展もあります。お互いに頑張りましょう。今日の午後の華道大学はよろしくお願い致します。

その後会議となり恒例により、塚越理事長により進行された。

(一)第十二回時代を彩る百花繚乱展について

各流派より選抜五十人展

新宿パークタワー1F

(二)華道大学講座について

七月二十九日ヴァイオリン

大谷 康子先生

(三)広報から渡邊華風より

(四)ホームページ長田華風より

(五)閉会

平成29年度
華道大学講座
「花とハーブの
コラボレーション」
愛情とやさしさで人を育つ

永山友美子(アイリッシュハーブ)

塚越 応鐘(花)

二〇一七年七月二十三日 十三時

十五時

浅草ビューホテル四階(飛翔の間)

一段と照明を落とした会場内の上壇ステージにはアイリッシュハーブが、会場中央には水が入った大きなガラスの花器が置かれ、その二点だけにスポットライトがあてられています。そんな中、永山友美子先生が登場し「花は咲く」を奏で始めると、塚越理事長が登場し花を生け始めました。「宵待草」「花水木」「あざみの歌」沖繩の曲「花」を次々と奏でるわずかに二十分弱の時間内で応鐘先生の

作品が見事に完成しました。

岡野常任理事の司会で開講宣言の後、武井副理事長が「理事長先生の素晴らしい作品を生けるところから見せていただきました。ガラスの花器に花止めがなく生ける技術は素晴らしいとおもいます。添えられたヒマワリも季節感があり素敵です。生けるところを見ていただくことは大変よいことです。永山先生の音楽も素晴らしく一段と良かったとおもいます。」と挨拶がありました。

続いて第二部として永山友美子先生の演奏とトークになりました。

暑い中ようこそお出かけいただきましてありがとうございます。九州では大変な水害にみまわれ、昨年は熊本で大きな地震がありました。祈りの気持ちを込め捧げます。一曲目は「アメージンググレイス」です。本業はハーブの演奏者ではなく、オペレッタという子どもたちが学校でする学芸会や音楽会で上演するミュージカルの音楽劇をたくさん作っています。いつも子どもたちと一緒に歌ったり踊ったりしています。ハーブもオペレッタも「人間の心の言葉と感

情」を音に乗せて運ぶという素晴らしい芸術です。

今日はいつもと趣を変えましてお花の先生方のお洒落な集いなので七月十四日のパリ祭に因んで、シャンソンをお贈りしたいとおもいます。パリで勉強され、パリで素敵な出会いをされました故秋元千穂先生(渡辺副理事長の御息女)のことを思い出しながら演奏いたします。

二曲目は「オーシャンゼリゼ」

三曲目「愛の賛歌」です。この曲は愛の言葉がついているのでよく結婚式で歌われますが実はとても悲しいエピソードがあるので。エディット・ピアフの恋人であったプロボクサーが飛行機事故で亡くなったという訃報を聞いたピアフが直後に吐き捨てるように書き連ねた「もしあんたがあたいに望むなら泥棒だって何デモしてやる。お月様の光だってちゃんと取ってくるよ、あたいはあんたが大好きだよ。」人間は悲しみを乗り越えてこんな素敵なメロディーと言葉が浮ぶんだなあとおもいました。

四曲目「海」です。「松原遠く消ゆるところ白帆の影は浮かぶ

…」仕事上いろいろな施設に伺います。音楽の不思議な力に驚か

されるのが度々あります。もう我が子の名前もわからなくなった方に懐かしい童謡を奏でると一番二番と間違いない歌われる。人間の命の灯が消える時、本当に必要なものは何だろう。有り余るお金があっても使うことはできない。たくさん家族がいながら、じつと孤独に耐える方もいる。いい学校を出ていい会社勤めでもそれは過去のことで誰ももう知らないこと。そんなことより「自分で自分の心を癒すことができる歌を、音楽をどれほど知っているか」その方がずっと役に立つかなと思います。心と体に染みこんでいる童謡に勝るものはない。どうぞ皆さん、あなたの周りの方にたくさん

の美しい言葉とメロディーを伴った童謡を歌い聞かせてあげてください。それはだれかのためであるとともに、回り回って自分のためになることです。そして何か一曲でいいから、その家庭のテーマになるような歌があるといいなあ。お母さんのでたらめ曲でもいいじゃない。そんな曲があれば私たちの家族は良い時も悪い時もこの

歌を歌って頑張ったね、この曲を聴いて頑張ったね。そういう曲が一曲でもあれば数十年後、動けなくなった時あなたの周りでああなたの家族がその歌を歌うんです。そこには家族しかわからない共有の時間が流れるのです。どうぞ、素敵な童謡を歌い聴かせてあげてください。

では夏の童謡をもう一曲、五曲目「夏のおもいで」。皆様方にとつて本日が夏の思い出になることを願っております。

六曲目「バラが咲いた」。この会場にもたくさんバラが咲きま

すように。

ここでの楽器の説明です。楽器の名前は？—アイリッシュハーブ弦の数は？—三十四弦 赤い弦は？—ドの音 青い弦は？—ファの音 赤い弦まで順番に弾くとドレミファソラシドとなります。上にある金具は？—レバーを上げることによって音程を半音かえられます。変調の多い曲は弾けない、は三つまで、は四つまでしか弾くことができない。

罪を犯した子どもたちがたくさんいます。どうしても悪いことをしたとは思えない。演奏を聴いて

いるときの表情、感想を聞いた時の表情、全く普通の子と変わらない、何が悪かったのか、恥ずかしながら大人の責任だと思う。今日の講演のタイトル「愛情とやさしさで人は育つ」。どうぞ、お子様方、お若い方を導くときはたっぷりの愛情を注いでお導きください。その愛情はお金や物でなく、「ぬくもりと美しい言葉」で伝えていた

七曲目は「愛燦燦」です。この曲を弾いている間に愛と反対の言葉をいくつか思い浮かべてください。愛とはある方の言葉によると「憎しみ」ではなく、「無関心」である。憎しみには存在があるが、無関心は存在を認めない。マザーテレサの言葉です。

七月は思い出の曲がたくさんあります。八曲目は「こんにちば赤ちゃん」。

九曲目は「見上げてごらん夜の星を」。永六輔さんが昨年七夕の日に天に召されました。この国の赤ちゃんが虐待されています。心が痛んでなりません。たくさんのが痛んでたくさんのが被害者がいます。若い方、お子さん、お孫さんを導く時はたっぷりの愛情をもつ

援歌、♪花は♪花は♪花は咲く♪
は華道大学のオーブニングにびつたりと思っていたら、いけばな松風家元先生のパフォーマンズが始まりました。

涼を感じられるようにと用意された大きなガラスの器。太いもみじが絶妙なバランスで生けられた瞬間、会場全体がその美しさに魅了され、空気が一瞬にして張りつめました。さらにドウダン躑躅、ひまわりなど迷いのないスピード感で生けられた花々が発する力強さに誰もが圧倒されました。愛おしように紫陽花の頭をボンボンと撫でられた家元先生の姿にお人柄が表れていたように感じます。

永山友美子先生による本番の講演。
「ようこそおいで下さいました」と柔らかなお詞で始まり、笑いあり・クイズあり・涙ありの講演に感激。永山先生のライフワークでしょう。ボランティアでの体験を語られながらの演奏。ユーモアを交えながらの語りで引き付けた私たちを虜にしました。表題の「愛情とやさしさで人は育つ」ということに感じ入り、最後の「コスモス」の演奏に涙をこらえることが

できませんでした。没後一周年になる永六輔さんを偲んで井口先生の朗読「生きていくということ」は」とのコラボレーションも素晴しかったです。ご自身の体験からくる言葉には説得力があり心に響くものがあります。感極まり言葉に詰まりながらも、ご自身の思いを皆に伝えたいと、にこやかに一

華道大学講座に参加して

翠月古流 外山 華和

会場の真中には透明なガラスの大きな花器、舞台はハーブ奏者永山友美子様の奏でる「花は咲く」のながれる中、いけばな松風の塚越忠鐘先生が大きな楓を入れられと目にも耳にも美しい情景から始まり次々と大きなもみじ四種と真中にたっぷりのドウダン、花はアジサイ、ヒマワリ、モンステラなどが生けられ、花とハーブの音色に会場はさわやかな風が流れ、花とハーブの融合となりました。

ここで塚越理事長が開会の挨拶をされました。
二部はハーブの演奏です。自己紹介の後、九州の水害に遇われた

生懸命話してくださいました。
「ぬくもりと美しい言葉で導く」「夢はおのずから叶える」「自分で自分の心を癒す言葉を知っている」など私自身にも言い聞かせながら、周りの人たちにもっともつと愛情を注がなければと思いました。

方々へ「アメイジンググレース」を演奏されました。

最初の曲「オーシャンゼリゼ」でしたが奏でる中で、翠月古流、副家元・秋元華穂先生がパリーで活躍していた姿を思い出されたとのことでした。私たちにとりましてもあまりにも深い人生を送られました華穂先生を思い、そして遺作となりました「巴里で逢った人」を思うとき心が痛みます。

次の演奏曲は愛の讃歌、海、夏のおもいで、バラが咲いた等々、時々ユーモアを交えての演奏を楽しく聞くことができました。

その中で永山様は、ボランティア活動のこと、子どもたちに「やさしさ」とぬくもりとそして美しい言葉を」と何度も話されておられ

ました。そして最後の演奏は、コスモスを奏でられました。

素晴らしいお花とアイリッシュハーブの音色とのコラボレーションが完成し、満喫させていただきました。

編集後記

今年度から会報は新しい冊子となり、カラーとなりました。多くの皆様から原稿をいただきましたこと、お礼申しあげます。会員一人一人の会報ですのでこれからも原稿をお寄せください。先輩が築いてくださいました日華連を皆様の手で益々発展させていきましょう。
(広報部長 渡邊 華風)

皆様には益々ご健勝にて、ご活躍のこととお喜び申し上げます。平成二十九年度も総会、新年会、百花繚乱展、幹部会、華道大学と、滞りなく終了いたしました。

この度「日華連会報一三〇号」から年一回カラー版にて発行の運びとなりました。

今号にも多くのご投稿をいただきありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。
(広報担当 武井 美睦)